

中 学 校

平 成 11 年 度

# 教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

|     |
|-----|
| 音 楽 |
|-----|

東 京 都 教 育 委 員 会

平成11年度

## 教 育 研 究 員 名 簿 (音楽)

| 区市町村名   | 学 校 名       | 氏 名       |
|---------|-------------|-----------|
| 江 東 区   | 江東区立深川第三中学校 | 辰 口 士 朗   |
| 品 川 区   | 品川区立荏原第三中学校 | ○ 高 橋 滋   |
| 世 田 谷 区 | 世田谷区立砧南中学校  | □ 柳 田 拓 史 |
| 豊 島 区   | 豊島区立駒込中学校   | □ 谷田部 裕美子 |
| 板 橋 区   | 板橋区立板橋第一中学校 | 藤 村 路 代   |
| 練 馬 区   | 練馬区立練馬中学校   | 佐 藤 千 佳   |
| 八 王 子 市 | 八王子市立南大沢中学校 | □ 前 田 賢 一 |
| 立 川 市   | 立川市立立川第四中学校 | 竹 内 順 子   |
| 小 平 市   | 小平市立小平第五中学校 | ○ 渡 邊 泰 祐 |
| 国 分 寺 市 | 国分寺市立第三中学校  | ◎ 神 尾 隆 人 |
| 八 丈 町   | 八丈町立三原中学校   | □ 吉 岡 佐知子 |

◎世話人    ○副世話人    □記録

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事    原 田    徹

# 目 次

|     |                                     |    |
|-----|-------------------------------------|----|
| I   | 主題設定の理由 .....                       | 2  |
| II  | 研究の構想図 .....                        | 3  |
| III | 研究の内容                               |    |
| 1   | 理論研究 .....                          | 4  |
|     | (1) 音と人とのかかわりについて                   |    |
|     | (2) 音楽の諸要素の理解と基礎的な表現のための技能の必要性      |    |
|     | (3) 音楽活動を通じて認めあう場面とは何か              |    |
|     | (4) 心の教育としての音楽科の役割                  |    |
| 2   | 調査研究 .....                          | 6  |
| 3   | 授業研究                                |    |
|     | 【指導事例Ⅰ】「合唱曲の特色をつかみ、表現の工夫をしよう」 ..... | 10 |
|     | 【指導事例Ⅱ】「箏の魅力を感じよう」 .....            | 14 |
|     | 【指導事例Ⅲ】「和音の響きとつながりについて考えよう」 .....   | 18 |
|     | 【指導事例Ⅳ】「合唱の素晴らしさを探り、感動を伝えよう」 .....  | 21 |
| IV  | 研究のまとめと今後の課題 .....                  | 24 |

## 研究のあらまし

研究主題を「音と人とのかかわりの中で、互いを認め高めあいながら、豊かな人間性をはぐくむ指導の工夫」と設定し、研究を進めてきた。音楽活動を通して、どのようにしたら生徒が主体的に学び、豊かな人間性をはぐくんでいけるのかということをテーマに研究協議を行った。

仮説を検証するための検証授業において、歌唱では、生徒の豊かな発想から合唱曲が生き生きと生まれ変わり、器楽では、互いに教えあいながら人とのかかわりを深めていた。また、創作や鑑賞の授業では、それぞれが和音の響きを感じ取ることによって音楽の諸要素の理解に努めていた。

授業研究を重ねることにより、様々な活動を通して人間関係が深められ、素直な感動や生き生きとした表情が見られるようになった。

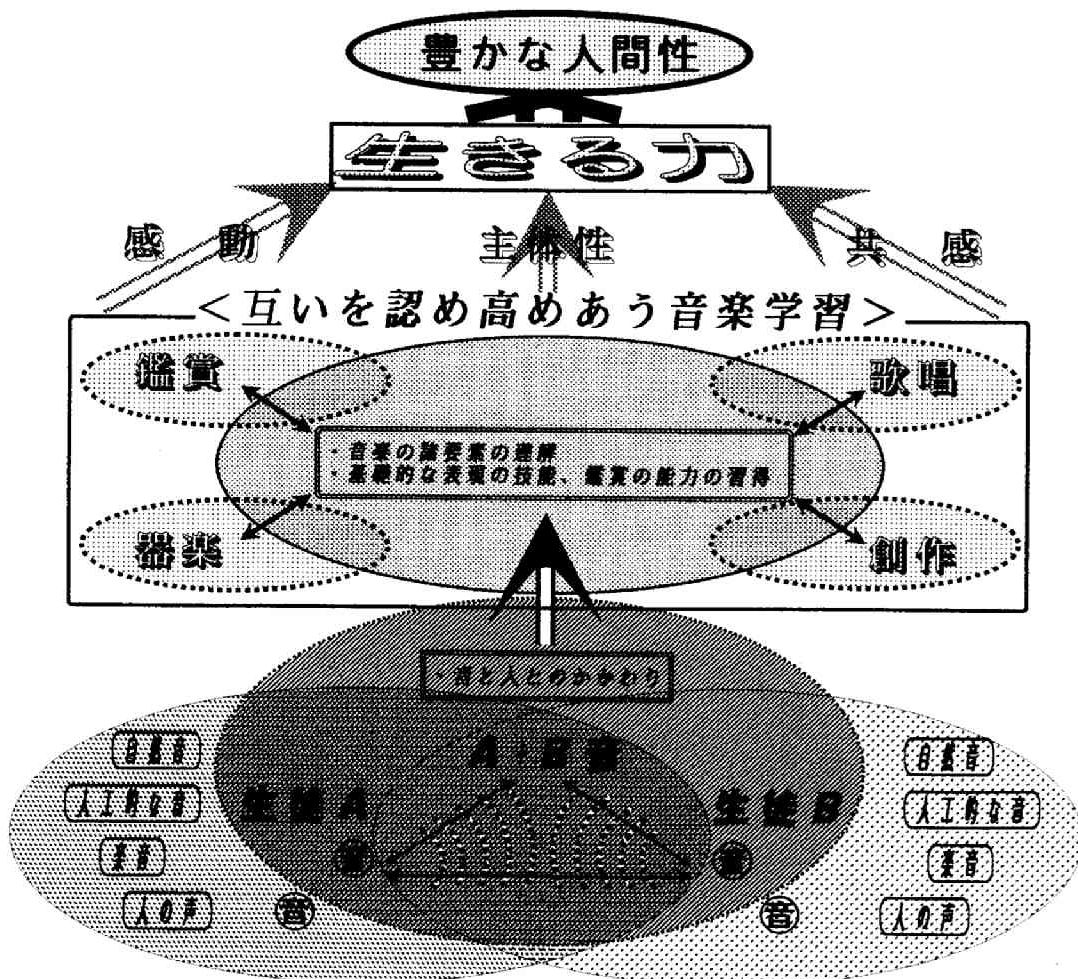
音と人とのかかわりの中で、互いを認め高めあいながら、豊かな人間性をはぐくむ指導の工夫

## I 主題設定の理由

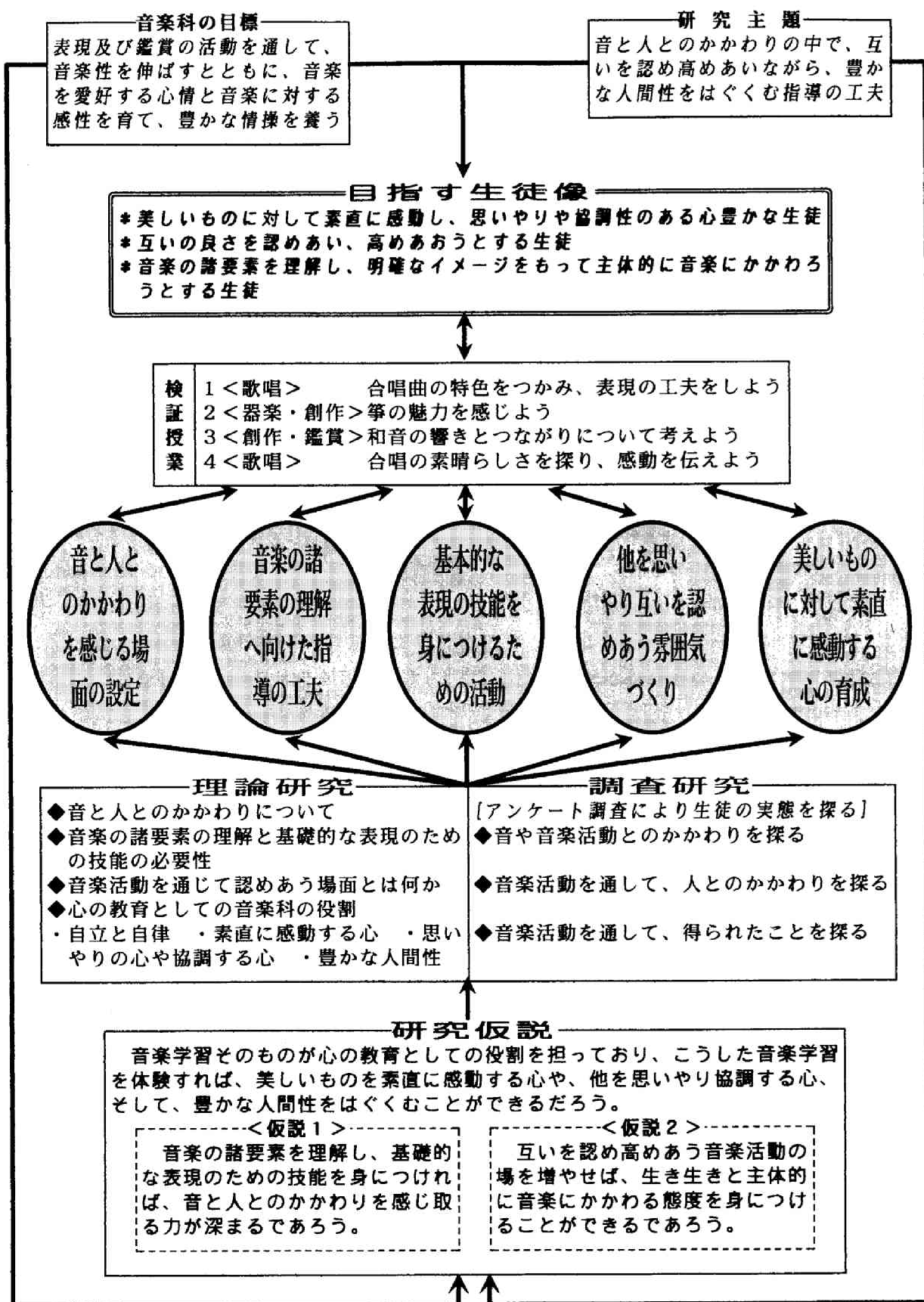
これからの音楽科教育では、生徒に美しいものに対して素直に感動する心をもたせ、互いを尊重し共感しつつ、主体性を身につけさせることが必要である。

本研究員は、音楽の学習を通して、「音と音」「音と人」「人と人」との関係を見つめ直し、深めることにより、互いを認め高めあう音楽学習を実践することができると考えた。そこで、研究主題を「音と人とのかかわりの中で、互いを認め高めあいながら、豊かな人間性をはぐくむ指導の工夫」と設定して、音楽の学習活動を、生徒が人として生きていく力を培う場の一つとしてとらえ、指導の工夫を図るため研究を進めることにした。

そして研究主題の仮説を、「音楽の諸要素を理解し、基礎的な表現のための技能や鑑賞の能力を身につければ、音と人とのかかわりを感じ取る力が深まるであろう。また、互いを認め高めあう音楽活動の場を増やせば、生き生きと主体的に音楽にかかわる態度を身につけることができるであろう。こうした音楽学習そのものが心の教育としての役割を担っており、美しいものを素直に感動する心や、他を思いやり協調する心、即ち、豊かな人間性をはぐくむことができるだろう。」とし、この仮説を検証するため指導の工夫や改善に取り組んだ。



## II 研究の構想図



### Ⅲ 研究の内容

#### 1 理論研究

##### (1) 音と人とのかかわりについて

我々は風の音のような自然音、車の騒音などの人工的な音、楽器の音などの楽音、人の声など様々な音環境の中で生活している。「意識する」「意識しない」という感じ方の違いはあるが、感覚的に受け止められた音は、刺激として何らかの影響を及ぼしているはずである。

音楽活動における音と人とのかかわりを考えた時、最初は、音を感覚的にとらえ、次に美しいと感じる感性が働き、音を感じ取ることができる。また美しいという感じ方だけではなく、音によってもたらされる、「やすらぎ」「緊張感」「不快感」などの心の動きを自覚することも大切である。「音によって心が動かされた」という、感情への働きかけに気づくことが、音とのかかわりの第一歩になるのではないだろうか。

音楽活動を通して、音のもつ特質を理解するためには、「感じ取る、受け止める」という一方的なかかわり方だけではなく、音と相互にやりとりをすることが必要である。

音を発しようとしてイメージをふくらませる過程は、音のイメージとして蓄積されたものから必要なものを選び、声や物を使って音を発するという段階を経る。次に発せられた音は新たなイメージとして蓄積され、最初にもっていた音のイメージと新たなイメージを融合することになる。この過程のくり返しが、音の違いについての思考を深め、様々なイメージにより、音を発することができるようになっていくと考える。

そして、体験を積むことにより、「この音はこんな感じ方をする」「この音には心がこんな動きをする」という意味が込められ、目的をもって音を発することが可能になり、豊かな表現が生まれるのである。表現として用いられた音は、人と人との間に響き、新たな人と人とのかかわりが生まれる。このような音による人と人とのかかわりが、多様な音楽活動に発展していくのである。

##### (2) 音楽の諸要素の理解と基礎的な表現のための技能の必要性

歌唱活動において言葉を音素材として扱う場合には、言葉の抑揚や韻、リズムや強弱、さらにこれらを総合した言葉のもつニュアンスを理解することが必要である。

言葉のもつニュアンスのイメージから歌詞に旋律をつけたり、その旋律を演奏したりした時に、「ふさわしい」「美しい」と感じる。

そして、旋律のついた言葉の表現が、どう変化したのかというような音楽表現の特徴を様々な音楽の諸要素とのかかわりから感じ取ることになる。

また、そのかかわり方から音楽の諸要素の理解を深め、イメージを再構成するためには、歌唱や器楽で表現する技能が必要である。イメージしたい表現に近づけるためには、感じ取ったことに対して、音楽の諸要素を働かせ、表現のための基礎的な技能を身につける学習を積み重ねていくことが大切である。

すなわち、音楽表現は、音楽の諸要素の働きによってイメージをふくらませ、曲想を再構成し、音楽的な技能で表現された時、美しさや豊かさなどをともなった音楽として新たにつくり出されるのである。

### (3) 音楽活動を通じて認めあう場面とは何か

音楽活動において「互いを認めあう場面」は、互いの音を聴きあい、音と音を通じてかわりをもつところから始まる。例えば、一人の生徒がリコーダーでCの音を出し、もう一人の生徒がEの音を出すとする。このような時には、互いの音を聴きあい、音色や正しい音程をあわせようとする中で、コミュニケーションが図られ、互いを認める心が生まれるのである。

さらに、音階のいくつかの異なった音を同時に出すことでハーモニーとなるが、ハーモニーの美しさだけではなく、互いにハーモニーを作った楽しさや喜びも共有することができる。そして、個と個のかかわりが、グループやクラスという大きな単位になると、楽しさにあふれ、音楽のスケールの大きさを感じ取ることができる。

「互いを認めあう場面」は、音楽学習のどの領域においても設定される必要がある。なぜならば、心を開いて音楽を表現するためには、自分の存在を温かく受け入れてくれる人間関係をつくることにより、安心感や満足感、自信や勇気をはぐくむことが大切である。

音楽活動を通して、一人一人が感性を豊かにし、思いや願いの実現に向けて聴きあい、感じあうことにより、思いやりや協調する心、よりよいものをつくりあげようとする心、美しいものを美しいと感じる心、主体的に音楽にかかわっていかうとする態度が培われるのではないだろうか。そして、人間関係の深まりは、感動をもたらす、心の豊かさへとつながっていくのである。

### (4) 心の教育としての音楽科の役割

#### ① 自立と自律について

音楽科における自立とは、音楽の基礎・基本を身につけ、自ら進んで音楽活動に取り組んでいくことであり、自律とは、音楽活動から得たものを多くの場面で生かし、互いのかかわりを大切にしながら、自らを磨く態度を養うことである。

#### ② 美しいものに対して素直に感動する心

感動する心をはぐくむためには、美しいものを美しいと感じる心や音楽に対する感性を豊かにしていく体験を積み重ねていく必要がある。そして、音楽学習への興味や関心を持ち、主体的に音楽活動に取り組み、他者と協力していく中で、自分の感情を素直に表現できるようにしていくことが大切である。

#### ③ 思いやりの心や協調する心

他者とのかかわりの中で、自分自身と他者を正しく理解し、寛容の気持ちをもちながら共生していくことである。例えば、音楽科の授業においては、自らの音を響かせながら、他の音の存在にも気づき、バランスをとりながら他と一体になり、響きをふくらませハーモニーを形成していくことである。

#### ④ 豊かな人間性

音楽の諸要素の理解を深め、互いを認め高めあう音楽活動の場を増やすことにより、主体的に音楽にかかわろうとする態度が身につく。このような音楽科の授業を通して、他に共感し、美しいものを美しいと素直に感動する心や互いを正しく理解し協調する心など、豊かな人間性をはぐくむことができる。

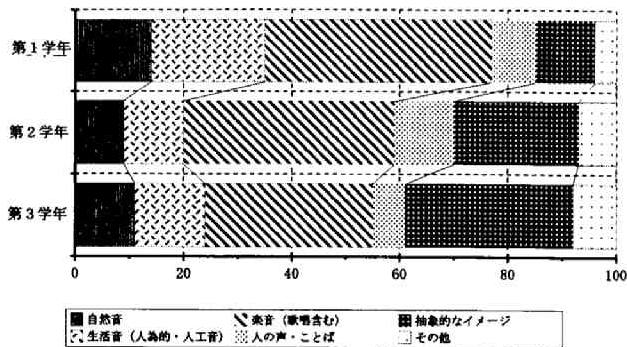
## 2 調査研究

音や音楽、音楽活動について、東京都内の公立中学校11校に対して、11項目のアンケートを実施した。以下に示した7項目は、その回答と考察である。

『対象人数』 11校 1,612人（1年 450人 2年 526人 3年 636人）

『実施時期』 平成11年7月

(1) あなたは、「音」と聞いてどんなイメージをもちますか。（どんな音を想像しますか。）



『回答の具体例』

\* 自然音

・風の音・水が流れる音・木の葉がざわめく音・動物の鳴き声・物が燃えている音・落ち葉を踏む音

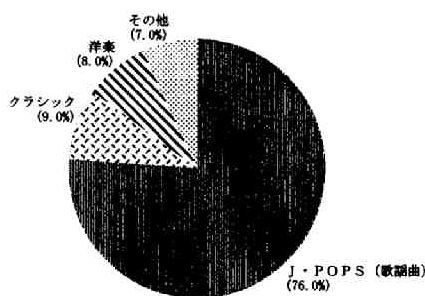
\* 抽象的なイメージ

・美しい・大切なもの安らぎ・柔らかな気持ちになる・なくてはならないもの

### 【考察】

学年が進行するにつれ、音に対して、大切なもの・心に安らぎをもたらすもの・喜怒哀楽というような、抽象的および心情的な発想が広がってくる。また、人の声や言葉をも音としてとらえていることに着目し、音楽が音を素材とする以上、このことも内容の理解や表現の工夫に、十分に生かしていくことが大切であると考え。

(2) 普段聴いている好きな音楽はどんな音楽ですか。また、その音楽を聴いてあなたはどんな気持ちになりますか。



『どんな気持ちになるかの具体例』

\* 落ち着いたたり安らいだりする。 34%

\* 楽しくなったりうきうきする。 48%

\* その他 18%

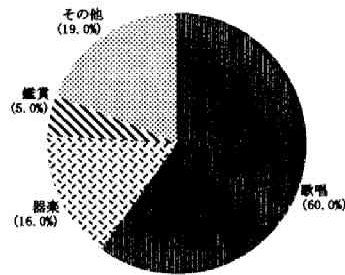
・その曲の主人公になった気持ち。  
・人生について考える。・曲に共感できる。  
・心の中から何かがわき上がってくる感じ。  
・嫌なことを忘れてすっきりする。

### 【考察】

生徒が普段よく聴く音楽は、普段の生活に密着しマスメディアの影響によるためか、日本の流行歌が圧倒的に多い。一方クラシック音楽などは自ら求めなければ、なかなか触れる機会の少ないジャンルである。今後の課題として生徒の趣向にとらわれることなく様々な音楽にふれる場面を増やし、より音楽を幅広く愛好する心情を育てていく必要性があると考え。

また、自分の好みにより自発的に選択をした曲を聴いているため、心の動きは能動的である。

(3) 音楽の授業や音楽活動において、どんなときに楽しいと感じましたか。



『その他の回答』

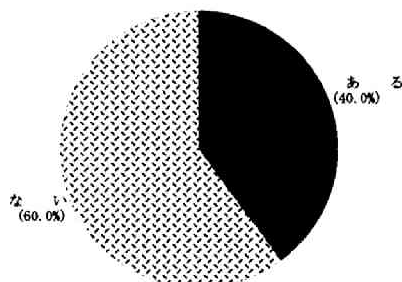
- ・クラスがまとまった時。
- ・曲が完成したとき。
- ・今までできなかったことができたとき。
- ・練習の成果が出たとき。
- ・発表が成功したとき。
- ・テストや検定に合格したとき。
- ・一人ではできないことが、みんなではできたとき。

【考察】

歌唱の領域で楽しいと感じている割合が非常に高く、歌うこと、合唱等で人とあわせることを楽しいと感じている生徒が多い。しかしながら、器楽、鑑賞等で楽しみを感じている生徒もいることから、今後も広い領域の音楽を取り扱うことも大切であると考え

る。  
また、“その他”の項目としては、行事等を通しての達成感を楽しいと感じている生徒が多い。

(4) 音楽の授業や音楽活動において、人に認められてうれしかったことはありますか。



『「ある」についての具体例』

\* 歌唱（合唱含む）

- ・「上手くなった」「きれいな声」「大きな声」「音程がよい」といわれた。
- ・自信がなかったときにほめられた。
- ・合唱祭でソロパートをもらったとき。
- ・「校歌紹介団」など特別に選ばれたとき。
- ・指揮者やリーダーに指名されたとき。

\* 器楽、その他

- ・木琴など器楽の発表でうまくいったとき。
- ・リコーダーがうまいといわれた。
- ・音楽に関して詳しく言われたとき。
- ・テストや通知表でみとめてもらった。
- ・自分の作った曲をほめられた。

\* 授業以外、校外の活動

- ・和太鼓で元気がよいといわれた。
- ・コンテストなどで賞をとったとき。
- ・ピアノや電子オルガンの発表会でほめられた。
- ・部活動で上級生にほめられた。

【考察】

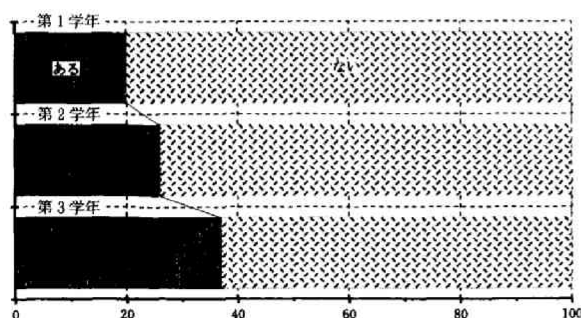
認められてうれしかった体験を「ある」と答えた生徒の方が少ないという結果から、今後も授業や音楽活動において、生徒一人一人が、認められる機会をより多く得られるような指導が大切であると感じた。

- (5) 音楽の授業や音楽活動において、指揮者やパートリーダーの体験をしたことがありますか。またまとめるときの大変さや、体験して良かったこと得られたことは何ですか。

| 学年  | 『まとめるときの大変さについての具体例』                                                                                                                                                         |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人に教えるとき、みんなが動いてくれない。</li> <li>・静かに話を聞いてくれない。</li> <li>・自分がしっかりしなければいけないこと。</li> <li>・男子の声が目立って、女子の声とのバランスがうまくとれなかった。</li> </ul>      |
| 2 年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカペラの曲で音楽的な部分で苦労した。</li> <li>・全体のことを考えること。</li> <li>・作戦（座席を考える）が大変だった。</li> <li>・人前で恥ずかしかった。</li> <li>・コミュニケーションがうまくいかない。</li> </ul> |
| 3 年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のアドバイスや指示がなかなか伝わらない。</li> <li>・みんな表現したいことが統一できなかったこと。</li> <li>・自分ができていないのに、みんなを指導しなければならなかったとき。</li> </ul>                        |

| 学年  | 『体験して良かったことについての具体例』                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・責任感がでてきた。</li> <li>・まとめることの難しさを学んだ。</li> <li>・自分の演奏技術が向上した。</li> <li>・音楽が好きになった。</li> <li>・自分の意見をもつようになった。</li> <li>・みんなに頼りにしてもらった。</li> </ul>                                                                         |
| 2 年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力する大切さを学んだ。</li> <li>・リーダーの大変さがわかった。</li> <li>・自分の演奏技術が向上した。</li> <li>・音楽が好きになった。</li> <li>・指揮者のおもしろさがわかった。</li> <li>・みんなが協力してくれた。友情が生まれた。</li> </ul>                                                                 |
| 3 年 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮者の役割が本当に大切なこと。</li> <li>・音楽の知識が増え、演奏技術が向上した。</li> <li>・みんなが協力してくれたこと。信頼関係ができた。人を思いやる心も生まれた。</li> <li>・自分に自信がもてた。みんなをまとめる力がついたこと。</li> <li>・音楽が好きになり、積極的に音楽のことを考えるようになった。</li> <li>・色々な人の、この曲に対する気持ちがわかった。</li> </ul> |

#### 【考察】



学年が上がるにつれ、「ある」と答えた生徒が多くなっている。「ある」と答えた生徒が、大変だったと感じたことに関しては、人とかかわりについて苦労したというものが多くみられた。しかしながら、それらの体験を通して得られた人間関係を良かったこととしてあげている生徒が多い。

豊かな人間性をはぐくむためにも、より多くの生徒に、このような体験のできる、様々な機会を与えることは、非常に大切であると思われる。

- (6) 音楽の授業や音楽活動においてどんなことで素晴らしいと思ったり、感動を味わったりしたか。

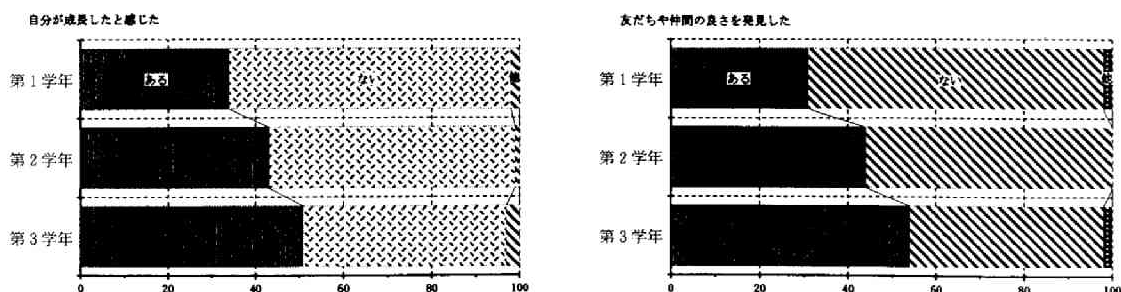
| 領域 | 学年 | どんなことで                                                                                                                                                                                                                        | 領域    | 学年 | どんなことで                                                                                                                                                                                                                |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 歌唱 | 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの心が一つになったこと。</li> <li>・みんなの頑張っている姿を見て。</li> <li>・やり終えた満足感や充実感。</li> <li>・内容も考え満足 of いく歌が歌えた。</li> <li>・自分たちの響きを感じた。</li> <li>・みんなで努力して曲を仕上げた。</li> <li>・自分たちの合唱をみつけられた。</li> </ul> | 器楽    | 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなであまく合奏ができた。</li> <li>・初めての楽器を体験したとき。</li> <li>・色々な音が重なりあったこと。</li> <li>・練習が一つの音楽になった。</li> <li>・みんなの音と心が一つになった。</li> <li>・大勢の人たちの前で演奏できた。</li> <li>・大きな拍手をもらった。</li> </ul> |
|    | 2  |                                                                                                                                                                                                                               |       | 2  |                                                                                                                                                                                                                       |
|    | 3  |                                                                                                                                                                                                                               |       | 3  |                                                                                                                                                                                                                       |
| 鑑賞 | 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音のすごさに感動した。</li> <li>・上手な演奏に出会った。</li> <li>・音楽家・作曲家の偉大さを感じた。</li> <li>・演奏者の気持ちになった。</li> <li>・「ソクッ」とするハーモニーや旋律に出会った。</li> </ul>                                                       | 理論・楽典 | 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の知識を知って、音楽がよく解った。</li> <li>・音楽の知識を知ることにより、より素晴らしい演奏ができることがわかった。</li> </ul>                                                                                                  |
|    | 2  |                                                                                                                                                                                                                               |       | 3  |                                                                                                                                                                                                                       |
|    | 3  |                                                                                                                                                                                                                               |       |    |                                                                                                                                                                                                                       |

#### 【考察】

歌唱や器楽においては、『みんな～』という場面（合唱、合奏時）が多い。普段の生活の中で、『みんな～』という場面が少ないと思われる。学年が上がるにしたがって、拍手をもらった時など、聴衆との音楽的共感を得られたときに喜びや感動を味わう経験をしている。鑑賞の領域においては、第1学年では演奏に感動しているのが主であった。上級生になるにしたがって演奏者の立場や作曲家のことを考え、音楽を多角的にとらえて、感動に結びつけられるようになってくる。

こういった体験から、第1学年ではまったくいなかった理論・楽典領域でも、上級生になると自ら学ぶ必要性を感じ、知識を得る喜びを体験している。

- (7) 音楽の授業や音楽活動において、素晴らしいと思ったり、感動を味わったりした体験から、自分の成長や、友達の良さを知ることができましたか。



#### 【考察】

学年が上がるにしたがって、自分が成長し、友だちの良さを知ることができたと感じた生徒が多くなっている。

### 3 授業研究

【指導事例Ⅰ】 題材名「合唱曲の特色をつかみ、表現の工夫をしよう」 (第1学年)

#### 1 題材設定の理由

生徒に「音」のイメージについてアンケートを実施したところ、日常の会話の中から「ありがとう」「ごめんなさい」など、なにげない「ことば」をイメージするという回答がみられた。

そこで、「ことば」を音素材ととらえ、音楽的に深まりのある表現の工夫を行わせたいと考えた。この学習活動を通して、生徒が音と人とのかかわりを感じ取りながら、互いを認め高めあい、豊かな人間性をはぐくむことができることをねらいとして本題材を設定した。

#### 2 研究主題との関連

##### (1) 音と人とのかかわりを感じる場面の設定

「ことば」を音素材ととらえ、「ありがとう」「ごめんなさい」などの「ことば」を使う時の気持ちを探りながら、音と人とのかかわりを感じられる場面を設定する。

##### (2) 基礎的な表現の技能を身につけるための支援

音楽的な表現の工夫を行うため、発想を示す用語や記号などの基礎的な知識の理解や、合唱にあった発声などの習得が必要であることを実感できるよう助言する。

##### (3) 他を思いやり互いを認めあう雰囲気づくり

グループで活動する学習形態により、生徒一人一人の個性的で柔軟な発想を引き出せるようにする。また、グループの代表による発表の場面では、発表に基づき相互に試す、考える、工夫するという過程で互いを認め高めあえる雰囲気づくりができるようにする。

##### (4) 美しいものに対して素直に感動する心の育成

「ありがとう」「ごめんなさい」などの「ことば」は、人の心にゆさぶりをかける。このなにげない「ことば」の美しさを感じ取り、表現の工夫をしていくなかで、感性をはぐくむ。

#### 3 指導目標

- (1) 楽曲のもつ特色や作詞者のメッセージを感じ取らせる。
- (2) 日常のなにげない「ことば」と歌詞や旋律のかかわりに気づかせ表現の工夫をさせる。
- (3) 互いを認め高めあえる雰囲気をつくらせ、音楽を表現する楽しさを味わわせる。

#### 4 指導計画（5時間）

##### 第1次（1時間）

- ① 日常のなにげない「ことば」を使っている合唱曲の鑑賞をさせる。
- ② 表現の工夫を行うため、グループ活動の課題を考えさせる。

##### 第2次（1時間）

- ① 合唱曲「虹色の鐘」の音程やリズムに気をつけながら歌詞唱をさせる。
- ② 「ことば」と歌詞とのかかわりについて考えるグループと、表現方法を工夫するグループを自由に選択させ、歌詞の内容を理解させたり、曲想の変化などの表現を工夫させたりする。

### 第3次（3時間）

- ① 各グループの発表に基づき、互いを認め高めあいながら表現の工夫をさせる。
- ② 「ことば」と歌詞や旋律とのかかわり、作詞者のメッセージを感じ取らせ、合唱のまとめをさせる。

## 5 評価計画

### 第1次

- ① 合唱曲を鑑賞し、特色を感じ取ることができる。
- ② グループごとの学習課題を考えることができる。

### 第2次

- ① 音程やリズムに気をつけながら歌詞唱ができる。
- ② グループごとに歌詞の内容を理解したり、曲想の変化などの表現を工夫したりすることができる。

### 第3次

- ① 各グループの発表について表現方法を工夫し、互いを認め高めあうことができる。
- ② 「ことば」と歌詞や旋律とのかかわり、作詞者のメッセージを感じ取れる。

## 6 学習指導の展開（第3次第1時の展開）

| 指導内容                      | 学 習 活 動                                                                           | 評 価 の 展 開                        | 指導上の留意点                |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|------------------------|
| ○発声練習<br>○前時までのまとめ        | ○ウォーミングアップをする。<br>○「夢の世界を」を合唱する。<br>○「虹色の鐘」を合唱する。                                 | ◆自主的に行えたか。<br>◆前時までの学習を生かして歌えたか。 | ○自主的に行えるよう、助言する。       |
| ○本時のねらいの確認<br>○課題別のグループ活動 | ○「虹色の鐘」よりテーマとなる「ことば」を選び、代表者が提示する。<br>○グループごとに、「ありがとう」「ごめんなさい」の「ことば」が使われている部分について話 |                                  | ○テーマとなる「ことば」を書かせ、提示する。 |



しあう。

グループ①歌詞の内容や作詞者の  
メッセージを考える。

グループ②テーマとなる「ことば」  
が使われている部分の  
歌い方や、伴奏の弾き  
方を工夫する。

◆曲の特色を感じ取り表  
現の工夫をしていたか。

◆互いを認めあえる雰  
囲気であったか。

○曲の内容について考  
えたことや表現を工  
夫したことを画用紙  
にまとめさせる。

○互いを認めあえるよ  
う助言する。



。「うらう」の所は、鐘が鳴る  
ように気持ちを込めて弾いて、  
歌う人も同じように歌う。  
。「ありがとう、ごめんばい」の所  
は、弾く人もじつ中で歌い、1回目より  
2回目をいねーにゆっくり弾き、  
歌う。

■互いに認めあう雰囲気で活動しているか、その様子を観察する。

■テーマとなる「ことば」と歌詞や旋律とのかかわり、表現の工夫、作詞者  
のメッセージについて、グループ活動を観察する。

○各グループ  
の発表

○各グループの代表者が、話しあ  
いのまとめを発表する。

◆それぞれの発表を理解  
し、互いを認め高めあ  
える雰囲気づくりがで  
きたか。

○発表の不十分なところ  
を助言し、理解さ  
せるようにする。

○発表に基づ  
いた合唱

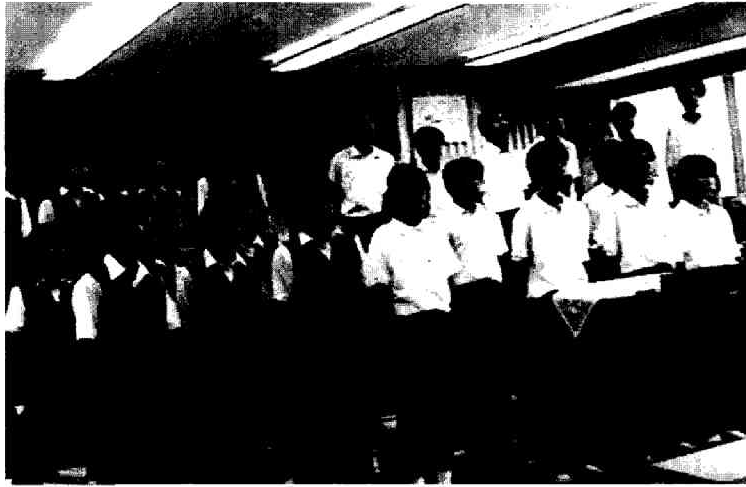
○発表を生かし、全員で合唱する。

◆音楽的な表現の工夫を  
深められたか。

○作詞者からの手紙を  
読み、曲想のイメー  
ジをふくらませるよ  
う助言する。



■他のグループの意見を取り入れながら表現の工夫をしているか、また、互いを認め高めあえる雰囲気で活動しているか、その様子を観察する。



○まとめ

○まとめの合唱をする。

○グループの代表者が歌詞の中から選んだ次時のテーマとなる「ことば」を発表する。

◆考えたことを生かして、積極的に活動できたか。

○本時の学習を次時に生かせるように助言する。

## 7 指導と評価の考察

本題材で扱った合唱曲は、日常会話のなにげない「ことば」が歌詞に多く出てくるため、「ことば」を身近な音素材の一つととらえる生徒の考えにあった教材である。

「ことば」が、どのように歌詞の内容や旋律とかかわり、音や人とかかわっているかなどを理解することにより、合唱曲の雰囲気を感じ取ることができる。

また、生徒の感性にゆさぶりをかけ、「ことば」から受けるイメージをふくらませ、音楽の諸要素の働きを感じ取りながら、表現の工夫をすることで、音楽的に深まりのある活動へ発展している。

課題別グループ活動による学習形態は、生徒自らの興味や関心に応じて、グループを選択するため、主体的な学習態度が身につくとともに、生徒一人一人の個性的で柔軟な意見交換の場面を設定ができる。特に、グループ相互の発表においては、互いを認め高めあう雰囲気をつくりあげることで、より音楽的で豊かな表現の工夫に結びつけることができる。

そして、さらなる課題を生徒自ら考えることにより、学習への意欲が高まり、合唱への豊かな表現を工夫する態度が養われてくる。

評価については、生徒一人一人が積極的に学習に参加し、グループ相互の発表を認めあいながら、音楽的に高められる過程を観察し評価することが大切である。個々の生徒の内面の変化については、自己評価カードや観察記録を通して、学習が次時に生かせるよう適切な助言に留意していく。

## 1 題材設定の理由

生徒は、日常生活の中で日本の伝統音楽にふれる機会が少ない。そこで、音楽科の授業を通して、それにふれさせたいと考えた。日本の伝統音楽には、我が国の文化を背景とした様々な特徴がある。箏を実際に演奏することを通して、楽器の特徴や魅力を感じ取らせ、日本の伝統音楽に対する理解を深めさせるとともに、我が国の伝統的な音楽文化を尊重する態度を身につけさせることをねらいとして、本題材を設定した。

## 2 研究主題との関連

## (1) 音と人とのかかわりを感じる場面の設定

箏を実際に演奏し、楽器の生の音を味わったことのある生徒は少ないと思う。そこで、一人一人が箏に触れ、互いに学びあいながら演奏を体験することで、より一層、箏の魅力を感じ取らせる。

## (2) 音楽の諸要素の理解へ向けた指導の工夫

日本の伝統音楽には、「音色」「余韻」「間(ま)」など、固有の特徴がある。箏を演奏をしながら、これらの諸要素の理解を深め、曲にふさわしい表現を工夫させる。

## (3) 基礎的な表現の技能を身につけるための活動

一人一面ずつの箏を用いて、練習などの活動が深まるようにする。楽器の基本的な奏法などは、二人組で確認しあいながら進める。

## (4) 他を思いやり互いを認めあう雰囲気づくり

二人組や小グループの学習形態により、互いに相談しあい、教えあうような場や互いの発表を聴きあい、それぞれのよさを認めあう場をつくる。

## (5) 美しいものに対して素直に感動する心の育成

箏の音色は、美しい余韻と心の安らぎを感じさせる。鑑賞するだけでなく、自ら楽器を演奏することにより、美しいものに対して、さらに感動する心をはぐくむ。



## さくらさくら

日本古曲

(前奏)

<平調子>  
弦… 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 斗 巾

### 3 指導目標

- (1) 箏の魅力を感じ取らせ、箏の音楽に興味や関心をもたせる。
- (2) 箏の奏法の特徴を理解させ、楽器特有の表現方法を身につけさせる。
- (3) 二人組や小グループによる学習を通して、主体的な学習態度を養う。

### 4 指導計画（5時間）

#### 第1次（2時間）

- ① 箏の歴史や各部の名称などを理解させ、親しみをもたせる。
- ② 姿勢、調弦（平調子）、爪の使い方などについて理解させる。

#### 第2次（3時間）

- ① 「さくらさくら」の演奏
  - ア 演奏を通して、箏の表現の豊かさを味わわせる。
  - イ 8拍間の前奏を即興的に表現させ、演奏効果の工夫をさせる。
- ② 「荒城の月」の演奏を通して、押し手の奏法を理解させる。
- ③ 「六段の調べ」（初段の冒頭）の演奏を通して、押し手や引き色の奏法など、箏の様々な表現方法の特徴を理解させる。
- ④ 二人組や小グループでの練習と発表を繰り返し、意欲的に活動に取り組ませる。

### 5 評価計画（規準）

#### 第1次

- ① 箏に対して、興味や関心をもって取り組むことができる。
- ② 箏の音色の美しさを感じ取ることができる。
- ③ 調弦や爪の使い方を理解できる。

#### 第2次

- ① 創意工夫して箏の演奏表現を工夫できる。
- ② 様々な箏の奏法の特徴を理解できる。
- ③ 主体的に音楽活動に取り組める。

### 6 学習指導の展開（第2次第1時の展開）

| 指導内容         | 学 習 活 動                                           | 評 価 の 展 開      | 指導上の留意点                                       |
|--------------|---------------------------------------------------|----------------|-----------------------------------------------|
| ○調弦確認        | ○調弦の確認をする。                                        | ◆正しい調弦を確認できたか。 | ○事前に調弦をしておく。                                  |
| ○「さくらさくら」の演奏 | ①模範演奏を聴く。<br>②一人で練習する。<br>③二人組で確認する。<br>④全員で演奏する。 | ◆意欲的に取り組んでいたか。 | ○爪の当て方や座り方なども確認する。<br><br>○互いにアドバイスできるようにさせる。 |



■姿勢や爪の角度などが正しくできているか、その様子を観察する。

⑤グループごとに演奏する。

◆他のグループのよさを  
発見できたか。

○自分の演奏と比較し  
ながら聴くようにさ  
せる。

⑥全員で演奏する。

○平調子の調弦による  
音の組み合わせの前  
奏づくりを意識させ  
る。

○「さくらさ  
くら」の前  
奏づくり

○「さくらさくら」のイメージに  
あった8拍間の前奏を即興的に  
表現する。

①範例と説明を聴く。

○イメージのもてない  
生徒には、いくつか  
の例を示し、参考に  
させる。

②一人で考え、表現する。

◆意欲的に取り組んでい  
たか。

③二人組で聴きあう。

◆相手の演奏を注意深く  
聴けたか。

○互いにアドバイスで  
きるようにさせる。



|      |                                      |                       |                                               |
|------|--------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------|
| ○まとめ | ■創意工夫をして取り組んでいるか、その様子を観察する。          |                       |                                               |
|      | ④数人の発表を聴く。<br><br>○全員で「さくらさくら」を演奏する。 | ◆それぞれの工夫を認めあうことができたか。 | ○工夫されている部分をほめる。<br><br>○本時のまとめの合奏であることを意識させる。 |

## 7 指導と評価の考察

本題材においては、第1次で箏への知識や理解を深めながら興味をもたせるようにし、第2次で曲の演奏を通しながら、奏法や表現方法の向上を目指す指導計画を立てた。

そして、生徒一人一人が箏を一面ずつ用いることにより、楽器に触れる時間をできるだけ多くとるように配慮したため、意欲的に箏の演奏に取り組んでいた。また、二人組や小グループによる学習形態は、自分の意見を発表しやすく、助けあいながら学ぶことができた。

特に、二人組による「さくらさくら」の前奏づくりでは、演奏を身近に感じ、明るい雰囲気の中で学習することができ、盛り上がった授業展開となった。小グループの活動では、練習した曲を発表しあい、互いの演奏を聴き、比較聴取することにより、それぞれのよさを認めあえるような活動ができた。

評価に関しては、姿勢や奏法など、身につけるべき基礎的・基本的な内容が定着しているかを活動の様子から観察し、確認することができた。また、箏の魅力を感じることができたかについては、意見発表や感想文の内容により評価した。

### 即興的につくった「さくらさくら」の前奏



【指導事例Ⅲ】 題材名「和音の響きとつながりについて考えよう」 (第2学年選択音楽)

## 1 題材設定の理由

日ごろ聴いている合唱曲などの構成は、音色、リズム、旋律、和声、形式などの音楽の諸要素の働きが、有機的に結びつくことによって成り立っている。ところが生徒は、自分が歌っている旋律が、和音進行によって支えられているということにはなかなか気づかない。

そこで、今回は、和声に焦点を当て、音楽の流れの中で和音の響きの連続によって引き起こされる緊張感や安定感、響きの変化によって生まれる心の動きなどについて考えることをねらいとして、題材を設定した。

## 2 研究主題との関連

### (1) 音と人のかかわりを感じる場面の設定

和音の響きを深く感じ、イメージを音楽表現に生かすための基礎として、 $I \rightarrow IV \rightarrow II \rightarrow V_7 \rightarrow I$ の和音進行にあった旋律をつくり、ア・カペラで合唱させる。4パートによる和音の響きを表現しながら、各和音の響きの移り変わりを感じ取らせる。

### (2) 音楽の諸要素の理解へ向けた指導の工夫

各和音の響きを意識して聴き、自分なりのイメージをもち、様々な色で表現する。そして、一つ一つの和音の響きと和音が連続している場合の響きとを比較して、感じ取らせた。なお、主和音とそれ以外の和音の響きの違いを際立たせるため、ディミニッシュコードも使用する。また、音楽に対するイメージを深めるための要素として、旋律を和音が支えていることに気づかせる。

### (3) 他を思いやり互いを認めあう雰囲気づくり

オルガンを弾く生徒、ワークシートに記入する生徒、和音の組合せを考える生徒など、役割を分担して、互いに助けあい協力してグループ学習を行う。

### (4) 美しいものに対して素直に感動する心の育成

曲想の美しさ、音楽のもつ雰囲気や豊かさの感じ取り方は、一人一人異なるが、様々な和音の響きに気づかせることで、感性を豊かにし、興味や関心をもたせるようにする。

## 3 指導目標

- (1) 和音のもつイメージを描画で表現させ、興味や関心をもたせる。
- (2) 緊張した和音や安定した和音など、和音の響きの変化を感じ取らせる。
- (3) 和音進行には、機能的な働きがあることに気づかせる。

## 4 指導計画(5時間)

### 第1次(1時間)

- ① 和音の成り立ちについて知り、個々の和音の響きの特徴に気づかせる。
- ② 第3次で聴くピアノ曲で使われる和音(A、Bm、E<sub>7</sub>、G#dim<sub>7</sub>など12種類)の響きを聴いて、感じ取ったことを色彩や形で表し、響きに対するイメージをふくらませる。

### 第2次(1時間)

- ① 第1次で聴いた和音の中から好きな和音を4個選び、順番を決めて表現することにより、和音の響きの移り変わりを感受させる。

- ② アニメーションによる対照的な二つの場面を音声を消して鑑賞し、それぞれにふさわしい響きのする和音を選び出させる。
- ③ 緊張した場面や安定した場面にふさわしい響きのする和音があることを知り、響きの違いを感じ取らせる。

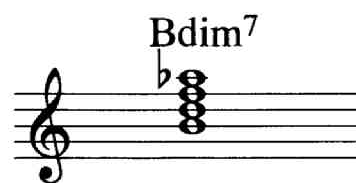
### 第3次（3時間）

- ① 緊張感のある和音から安定した和音へ進行することで、開放感を感じ取らせる。
- ②  $V_7 \rightarrow I$  が繰り返される曲や  $V_7 \rightarrow I$  にⅣとⅡが加わった曲を聴取し、和音進行にふさわしいと感じた色彩で表現させたり、和音進行を人形の動きで表現させたりする。
- ③ ショパンのピアノ曲の和音進行と第2次で生徒がつくった和音の連続を比較し、和音の響きから受ける雰囲気の違いについて考えさせる。
- ④  $I \rightarrow IV \rightarrow II \rightarrow V_7 \rightarrow I$  の和音進行にあった旋律をつくらせ、和音の連続の中での響きを感じ取りながら合唱させる。

## 5 評価計画（規準）

### 第1次

- ① 様々な和音の響きに興味や関心をもつことができる。
- ② 和音に対する理解を深め特徴を感じ取ることができる。



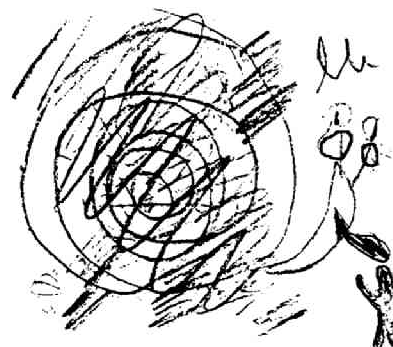
### 第2次

—上記の和音の響きを色や形で表した生徒画—

- ① 協力して、グループ学習に取り組むことができる。
- ② それぞれの和音の響きの違いを感じ取ることができる。

### 第3次

- ① 和音進行の変化を感じ取り、聴き分けることができる。
- ② 和音進行の美しさに気づき、よさを味わうことができる。
- ③ 意欲的に学習に取り組み、発表することができる。



### 第4次

- ① 機能と声にあつた旋律をつくることができ、合唱表現できる。

## 6 学習指導の展開（第3次第1時の展開）

| 指導内容        | 学 習 活 動                                                                                                                                            | 評 価 の 展 開           | 指導上の留意点         |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------|
| ○和音の聴取      | ○ワークシートを見ながら12種類の和音の響きを聴く。                                                                                                                         | ◆真剣に聴いていたか。         | ○遅い速度でピアノを演奏する。 |
| ○和音進行の様々な工夫 | ○オルガンで12種類の和音を演奏し、その中から4個の和音を各グループで選ぶ。                                                                                                             | ◆協力して、グループ学習をしていたか。 |                 |
|             | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>■一人一人が、和音の響きの特徴を感じ取っているか、また、グループで協力して、意欲的に学習活動を行っているかを観察する。</p> </div> |                     |                 |
|             | ○各グループで和音の連続を考える。                                                                                                                                  | ◆グループで話し合いを進めていたか。  |                 |

|           |                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                |                                                                                                                  |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○和音の響きの把握 | <p>○各グループで考えた和音の連続を発表する。</p> <p>○各グループの発表の印象をカードに記入する。</p> <p>○緊張感のある場面と安定感のある場面の映像を鑑賞する。</p> <p>○A、Bm、E<sub>7</sub>、G#dim<sub>7</sub>など12種類の和音の中から、二つの場面にふさわしい和音を考える。</p> <p>○グループごとに発表する。</p> | <p>◆グループの発表が、堂々とできたか。</p> <p>◆積極的に記入していたか。</p> <p>◆グループで響きを確認していたか。</p> <p>◆各自がしっかり考えていたか。</p> | <p>○各グループの場所で発表させる。</p> <p>○音声を消した映像を見せ、二つの場面では、一時停止をして、しっかり見せる。</p> <p>○発表内容を板書する。</p> <p>○ピアノで和音を演奏し、確認する。</p> |
|           | <p>■緊張感のある和音、安定感のある和音の響きの違いを感じ取れているか、発表の内容を評価する。</p>                                                                                                                                            |                                                                                                |                                                                                                                  |
| ○構成和音の比較  | <p>○主和音の響きとそれ以外の和音の響きをオルガンで演奏し比較する。</p> <p>○主要三和音について確認する。</p>                                                                                                                                  | ◆和音についての理解を深めることができたか。                                                                         | ○五線黒板や鍵盤図で説明する。                                                                                                  |



## 7 指導と評価の考察

本題材では、響きに対するイメージを深めるため、色彩や動きなどの視覚的な要素を取り入れ、わかりやすく表現することを目指した。その結果、音楽の苦手な生徒が、音に対するイメージを具体的にもち始めている。そして、一つの旋律が和音の響きに支えられ、豊かに表現されていることを感じ取れるようになってきている。

グループ学習では、リーダーになった生徒が、他の生徒を援助し協力しあえる雰囲気をつくり出すことで、主体的な学習活動が行えるようになった。

評価については、和音の響きを色彩や人形の動きで表現している様子から、和音に対する感じ方を評価することができた。また、和声の知識や理解に基づいて旋律を創作したり、合唱で表現したりしたことは、表現への意欲を深めるために効果的であった。

## 1 題材設定の理由

本部会の調査研究によると、音楽の授業では、合唱活動を楽しんでいる生徒が多いという結果が出ている。合唱を通して、音と人とのかかわりや、歌詞が音楽にどのようにかかわっているのかを考えながら音楽活動することは、表現する意欲を高めることになる。

本題材では、グループに分かれて強弱記号や速度記号を楽譜に新たに書き加えたり、独自の発想を示す用語を作り出したりして、表現の工夫をする学習活動を行う。

このような学習活動を通して、合唱の基礎的な表現の能力を高めることができるとともに美しいものに感動し、それを伝えようとする心、そして互いを認めあう心を学ぶことができると考える。そのため、豊かな人間性をはぐくむための重要な題材の一つとして、本題材を設定した。

## 2 研究主題との関連

### (1) 音と人とのかかわりを感じる場面の設定

合唱表現を高めていく過程には、歌詞の朗読、歌詞唱、パート練習など、様々な場面がある。音と人とのかかわりを感じ取らせるために、各パートの役割を生かしながら表現することを意識させ、活動を行わせる。また、歌詞の内容や楽曲の美しさを通して、人に感動を伝えるためには、どのような表現をすればよいかを工夫させる。

### (2) 音楽の諸要素の理解へ向けた指導の工夫

音色、リズム、旋律、和声などの音楽の諸要素と強弱記号、速度記号や発想を示す用語によって、曲想に変化が与えられ、楽曲の特徴や素晴らしさを表現するために、大切な役割を果たしていることに気づかせる。また、生徒自らがそのような記号や用語を新たに加えることにより、自分たちの表現をするための工夫をさせる。

### (3) 基礎的な表現の技能を身につけるための活動

基礎的な表現の技能を身につけるためには、音楽の諸要素を理解し表現の工夫をしながら、くり返し練習を行うことが大切である。また、生徒が主体的に活動する場面を多く取り入れながら練習を進めていく。

### (4) 他を思いやり互いを認めあう雰囲気づくり

グループ学習を取り入れ、活動が深まるようにし、発表の際には理論性や創造性のある発表ができるようにするとともに、他のグループの発表にも関心をもたせるようにする。このような場面を多くすることにより、互いに認めあえる雰囲気をつくっていく。

### (5) 美しいものに対して素直に感動する心の育成

楽曲について数多くのことを学習することにより、その美しさを深く知ることになる。美しさを知ることができれば、それが感動に結びつく。今回は谷川俊太郎作詞、木下牧子作曲の組曲「地平線のかなたへ」から“春に”を教材として使用した。この曲は、各声部が思いのままに表現しやすいフレーズからできており、歌詞は美しく、問いかけの言葉には様々な思いが込められている。この楽曲を扱うことにより、学習活動に多様な展開が予想され、感動する心の育成ができる。

### 3 指導目標

- (1) 音楽の諸要素についての理解を深め、楽曲のもつ特徴を感じ取らせる。
- (2) 発想を示す記号や用語などを使って表現の工夫をすることにより、感動を伝える態度を養う。
- (3) 互いのよさを認め高めあいながら、合唱表現をつくりあげる喜びを味わわせる。

### 4 指導計画（7 時間）

#### 第1次（3 時間）

- ① “春に”の歌詞を朗読し、イメージをふくらませる。
- ② 発想記号が記入されていない楽譜をもとに、歌詞唱をさせる。

#### 第2次（2 時間）

- ① 独自の発想記号や用語を考え表現するグループAと、既習の発想記号を使って表現の工夫をするグループBとに分け、各グループで互いに感動を伝える演奏するための工夫をさせる。
- ② グループごとに学習内容を発表させ、演奏を録音しておく。

#### 第3次（2 時間）

- ① 前時に録音した演奏とCDなどの模範演奏とを鑑賞し、気づいた点などを発表させる。
- ② 音楽の諸要素の働きを感じ取り、曲想の変化を工夫しながら合唱練習させる。
- ③ 学級全体で、表情豊かに合唱表現させる。

### 5 評価計画（規準）

#### 第1次

- ① 正確なリズムや音程で表現し、歌詞の内容を理解して合唱することができる。
- ② 興味や関心をもって、合唱活動に取り組むことができる。

#### 第2次

- ① 曲想の変化を各グループで工夫することができる。
- ② 意欲をもってグループ活動に取り組み、創造的な学習ができる。

#### 第3次

- ① 工夫した点を生かして発表でき、感動する合唱をすることができる。

### 6 学習活動の展開（第2次第1時の展開）

| 指導内容    | 学 習 活 動                                                     | 評 価 の 展 開                 | 指導上の留意点                       |
|---------|-------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------------------------|
| ○発声練習   | ○腹式呼吸をする。                                                   | ◆意欲的に行えたか。                | ○気持ちよくできるような雰囲気にする。           |
| ○グループ活動 | ○既習曲の合唱をする。                                                 |                           |                               |
|         | ○グループAは独自の発想記号や用語の考えをまとめる。グループBは強弱記号、速度記号などを使い表現方法の考えをまとめる。 | ◆互いに認め高めあいながら、進めることができたか。 | ○認め、励ますようにする。<br>○発表の仕方を確認する。 |
| ○学習の発表  | ○拡大した楽譜を使い、学習結果を発表する。                                       | ◆互いの発表を認めあうことができたか。       | ○工夫した点などを認めるような助言をする。         |

|          |                                                                       |                               |                        |
|----------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------|------------------------|
| ○発表の考察   | ○学習した結果について、意見交換をする。                                                  | ◆一人一人が、積極的に発表し、意見を述べることができたか。 |                        |
|          | ■互いのよさを認め高めあいながら、つくりあげていく喜びを感じ取ることができたか、意見交換の様子を観察する。                 |                               |                        |
| ○合唱表現の工夫 | ○考えた用語や記号を楽譜に記入する。                                                    |                               | ○楽曲の特徴を確認させる。          |
|          | ■音楽の諸要素についての理解を深め、楽曲の特徴を感じ取らせることができたか、発表の内容を確認する。                     |                               |                        |
| ○全体合唱    | ○記入した用語や記号を生かして、練習をする。                                                | ◆曲想などの表現が工夫されていたか。            | ○よりよい表現になるように工夫させる。    |
|          | ■表現の工夫をさせることにより、歌詞に込められている思いや楽曲のもつ美しさを引き出し、感動を伝える表現をしようとしているか態度を観察する。 |                               |                        |
| ○全体合唱    | ○指揮者と伴奏者とともに、学級全体で合唱する。                                               | ◆真剣な態度で合唱表現していたか。             | ○人に感動を与えることの素晴らしさにふれる。 |

## 7 指導と評価の考察

本題材では、生徒の主体性を生かすために、グループで表現の工夫をさせている。グループ編成は、独自の発想記号や用語を考え表現を工夫するグループと既習の発想記号を使って表現の工夫をするグループとしている。

生徒自らが、独自の発想記号や用語を加えたり、テンポや強弱などの表現の工夫を行ったりすることにより、音楽的な学習内容とは何かを意識することができる。このことにより、音楽の諸要素の働きが、楽曲の特徴や素晴らしさを引き出す役割を担っていることに気づき、それらが感動的な演奏にするために大切なものだという認識をすることができる。また、生徒自らが歌詞やフレーズとのかかわりを考え、発想記号や用語を加えることにより、楽曲の特徴を生かした表現を工夫し、感動を伝えようとする態度が身についてくる。

グループ活動では、自分の意見をしっかり発表できる能力と他の意見を理解する気持ちを養うことにより、互いに認め高めあいながら、つくりあげる喜びを味わうことができる。

評価については、グループ活動や演奏発表の様子を観察し、意欲や態度についての評価を積みあげていくとともに、確認カードや感想文から生徒一人一人の感じ取り方に応じた助言が必要である。

## Ⅳ 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

本年度研究員は、音楽の学習を通して、「音と音」「音と人」「人と人」との関係を見つめ直し、深めることにより、互いを認め高めあう音楽学習を実践することができると考えた。

そこで、研究主題を「音と人とのかかわりの中で、互いを認め高めあいながら、豊かな人間性をはぐくむ指導の工夫」と設定し、研究を進めてきた。

そして、この研究主題に対する仮説検証のための授業研究を様々な領域から実施し、以下の3点を「目指す生徒像」として設定した。

- (1) 美しいものに対して素直に感動し、思いやりや協調性のある心豊かな生徒。
- (2) 互いの良さを認めあい、高めあおうとする生徒。
- (3) 音楽の諸要素を理解し、明確なイメージをもって主体的に音楽にかかわろうとする生徒。

授業研究から得られた研究の成果は、次のとおりである。

#### ① 歌唱の授業について

楽曲に込められている言葉のもつ意味を理解し、より豊かな音楽的表現を目指した。その活動過程における生徒同士の話しあいを通して、認めあう態度がはぐくまれた。

#### ② 器楽・創作の授業について

生徒が、一人一面ずつ箏を扱うという試みであった。基本的な技法を習得しながら、前奏を即興的に表現するなど、主体的に音楽にかかわろうとする態度がみられた。

#### ③ 創作・鑑賞の授業について

「和音」にテーマを絞り、様々な和音の役割やその響きを感じ取っていた。音の重なり織りなす美しい響きに素直に感動する気持ちが育ちつつある授業であった。

これらの授業研究に共通して言えることは、授業の中に必ず他者とのかかわりの場面が設定されていたことだ。その場面を通して、生徒が主体的に音楽にかかわっていき、音楽を媒体として互いを認め、高めあう気持ちがはぐくまれたものと考察できる。

### 2 今後の課題

本研究を通して、生徒の音楽的な成長の実態を通して、様々な指導内容や指導方法が明らかにされた。しかし、今後の課題として次のようなことがあげられ、今後も研究していく必要がある。

- (1) 短い期間に生徒が主体的な学習を行うことのできる、題材を工夫すること。
- (2) それぞれの生徒の特性に応じた、多様な学習活動の展開を工夫すること。
- (3) 生徒が課題を設定して解決方法や学び方を工夫し、成果を発表すること。